

日本ベンチャー学会 3月セミナー

「INCJ研究プロジェクト」

■日時：2024年3月11日（月）15：30～17：00

■開催形式：オンライン（Zoomウェビナー使用）

■主催：株式会社INCJ、一般社団法人日本ベンチャー学会

（※肩書は当時のものを掲載）

- 開会挨拶：各務 茂夫 一般社団法人日本ベンチャー学会会長、
東京大学大学院教授
- 共催挨拶：勝又 幹英氏 株式会社INCJ代表取締役社長（COO）
・INCJの紹介、およびINCJ研究プロジェクトの背景とINCJの目的
- 登壇者：勝又 幹英氏 株式会社INCJ代表取締役社長（COO）
豊田 哲朗氏 株式会社INCJ専務取締役
大重 信二氏 株式会社INCJ執行役員
芦田 耕一氏 株式会社INCJ執行役員
- ・INCJ研究プロジェクトの概要および応募要領等
- 登壇者：各務 茂夫氏 一般社団法人日本ベンチャー学会会長、
東京大学大学院教授
- 長谷川 博和氏 一般社団法人日本ベンチャー学会副会長、
早稲田大学大学院教授
- 福嶋 路氏 一般社団法人日本ベンチャー学会副会長、
東北大学大学院教授

日本ベンチャー学会3月セミナー「INCJ研究プロジェクト」が2024年3月11日、オンライン形式で開催された。

開催にあたり、主催者の一般社団法人日本ベンチャー学会各務茂夫会長より、本セミナーの概要及び趣旨説明が行われた。

【概要及び趣旨説明】

株式会社INCJ（旧株式会社産業革新機構、以下INCJ）は、旧産業競争力強化法に基づき15年間の時限組織として2009年7月に設立された官民ファンドである。オープンイノベーションにより次世代の国富を担う産業を育成・創出することを目的に、これまでに144案件の投資を実行している。その内訳は、ベンチャー投資案件（スタートアップ、企業からのカーブアウト等を含む）が107件、VCファンドへのLP投資案件が9件、事業再編・統合投資案件が12件、海外経営資源の活用のために日本企業と投資した案件が16件である。INCJは累積投資額約1.3兆円に対して、既に約1.8兆円（2023年3月末時点）を投資回収しており、2025年3月末には投資回収業務を終了する予定である。

こうした中、INCJはその業務・実績の全体的評価および個別案件の分析・評価等に関して、INCJの意向を前面に出すのではなく、学術的・中立的な視点に立った研究・調査による総括が必要であると考え、日本ベンチャー学会会員に対してINCJに係る様々な観点からの研究を奨励し、その結果として創作される論文・著作物全体をもって“総括”をしたい、との意向を表明した。

本セミナーは、今後、学会員への助成を含めた研究推進について、INCJ・日本ベンチャー学会が連携する本プロジェクトを紹介する目的で企画された。研究者が自由にテーマを選び、様々な角度から分析を行うことによりINCJの活動の全体像を把握し、国内外に発信することが可能となる。研究者の皆様にはぜひこのプロジェクトにご参加いただき、多様な視点から解析・分析を進めていただければと考えている。

続いて、株式会社INCJ代表取締役社長（COO）勝又幹英氏の共催挨拶が行われた。

【共催挨拶】

株式会社INCJは、産業革新機構として2009年より官民ファンドと

して活動を行ってきた。2018年に後継組織の産業革新投資機構が設立され、社名が類似していることから、産業革新機構の英語表記をとってINCJに名称変更し現在に至っている。

INCJは、1.官民ファンドとしての投資意義の実践、社会実装、2.投資リターンの達成、3.人材の育成・輩出の3点をミッションとして定め、活動の要としてきた。さらに、「オープンイノベーションを通じて次世代の国富産業を育成・創出する」という創業理念を実現するためには、単なる投資活動だけではなく、日本において様々な活動を受容・涵養する社会経済的基盤の構築や、エコシステムを高度化させる情報発信が重要であると認識してきた。

INCJは2025年3月にファンドの期限を迎える。現在までの総投資件数は144件、その8割以上が既にEXITし、その様々な投資体験、投資判断の知見、投資後運営の経験則、売却、資金回収とそれに伴う教訓など、これらを公共財としていかに次世代へ承継していくかを検討する局面にある。これまでINCJは、官民ファンドということもあり情報の発信には慎重を期してきたが、官民ファンドの存在意義や今後のありかたなどについて、第三者から積極的かつ客観的な形で情報発信にお力添えをいただきたいと考え、学会をはじめとする研究者の皆様方に協力を仰ぐ次第である。

次に、株式会社INCJから本プロジェクトについて説明があった。

まず、代表取締役社長（COO）の勝又幹英氏が、日本の産業構造の大きな転換期に多くの課題が山積する中、INCJが政策ビジョンを実行するための投資促進策として2009年に設立された経緯や、投資における基本方針を説明した。

続いて、専務取締役の豊田哲朗氏がこれまでの投資実績について、アーリーステージを中心とするベンチャー企業への投資、事業再編・バイアウト、海外投資などの案件タイプと、それぞれの投資成果を示した。さらに、執行役員の芦田耕一氏が、各投資案件タイプについて、豊富な投資先の事例を取り上げ説明を行った。

また、執行役員の大重信二氏は、INCJの活動について外部から中立的な評価を行い、それを今後の日本に役立てるために、日本ベンチャー学会に協力を仰ぐ旨のコメントを述べた。

INCJの発表の後は参加者からの活発な質疑応答を交え、一般社団法人日本ベンチャー学会副会長の鹿住倫世氏と長谷川博和氏よりそれぞれコメントが述べられた。

最後に、同副会長の福嶋路氏より、本プロジェクトの応募要領について説明が行われた。

その後、2024年4月1日（月）16：30～17：30、本プロジェクトの説明会がWeb開催され、本格的に募集が始まり、書類審査および6月の個別面談を経て最終審査の結果、最終的に16名の採択者（研究代表者）が決定された。これを受けて、7月にキックオフ・ミーティングが開催され、プロジェクト開始の運びとなった。主なスケジュールは以下の通り。

- ・2024年4月1日（月） INCJ研究プロジェクト募集開始
- ・2024年5月 書類審査
- ・2024年6月 オンラインにて個別面談実施、採択者決定
- ・2024年7月19日（金）・22日（月） キックオフ・ミーティング
- ・2024年9月20日（金） 第2回ミーティング
- ・2024年12月7日（土）、8日（日） 第27回全国大会において研究成果発表
- ・2025年3月 成果物の発表
- ・2025年6月 報告書用最終原稿提出